

日本の未来を見据えて撃つ！  
そんなあなたにホットな話題をお送りする  
最先端オピニオン紙

# 日本シティジャーナル

発行: ネットハウス  
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3  
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334  
[平日: 10:00~19:00、土曜: 12:00~17:00]  
<http://www.nihoncity.com>  
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市  
千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、西柏原市  
高々井町、京町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町  
発行部数: 500,000部

## 古代日本と邪馬台国の地勢観 Part.VI 邪馬台国の滅亡と神宝の行方を占う巨石文化

日本列島の大自然は、言葉ではとても語り尽くせぬほど、多くの魅力にあふれています。その美しい島国の姿を目の当たりにした古代の民は、島々に連なる地勢を肌で感じ取りながら、驚異的な地理感をもって日本列島の有り様を正確に把握していたようです。その優れた土地勘を駆使して列島をつぶさに精査した古代の民は、自らの地勢観と宗教的な教理に基づき、大自然の摂理に適った要所をピンポイントで選別して、そこに集落の拠点を設けたのです。そして今日、レイラインと呼ばれる、同一直線上に重要拠点を並べるといふ考察方法や、日の出、日の入りの方向をベースにした線引き等を活用しながら、列島全体を網羅してきました。

これまで、古代社会においてどのようなレイラインが用いられ、列島各地に諸々の拠点がピンポイントで特定されてきたか、その具体的な手法を解説してきました。それら原始的なレイラインの多くは、淡路島のおよそ中心に位置する岩上神社の神籬石や、伊弉諾神宮を通り抜けており、そこが一大交差点になっていることからして、古代において、いかに淡路島が地理的な中心として考えられていたかがわかります。そして、その神籬石に紐づけられるように、列島の地勢から際立つ高山、岬、島などが次々と指標として特定され、そのレイライン上に、そして時にはライン同士がクロスする場所に新たな拠点が見出されていったのです。

古代の渡来人が日本列島を訪れた際、島々の探索は南方の琉球から始まり、その後、北は青森県の八戸までも網羅した上で、これらの拠点は特定されました。当初、高山の指標として重宝されたのは、列島最高峰の富士山と、西日本最高峰の石鎚山、及び、それに匹敵する標高を誇り、淡路島からも頂上を眺めることのできる剣山でした。また、イスラエルのエルサレムと同緯度にある中甕島のヒラバイ山も重要な存在でした。岬の指標としては、鹿児島県の佐多岬、高知県の足摺岬、室戸岬が航海上の指標として不可欠であることから、古くから活用されました。これらの指標同士が相互に結び付けられ、時には同緯度上の線引きが重要視された結果、鹿島、出雲、宇佐、海神社、金刀比羅、海部、伊雑宮、花籠神社などの海沿いの拠点だけでなく、諏訪大社、高千穂神社など、内陸にも聖地の拠点が広がりを見せ始め、それらの位置づけもレイライン上に確認することができます。こうして日本列島の海岸線沿いに見出された拠点は、いつしか列島全体に広がりを見せ、それぞれがレイラインという目には見えない大自然の力によって結び付き、聖地としての意義を相互間で共有する地の力が出来上がっていきます。

### 邪馬台国の滅亡と神宝の行方

古代社会では淡路島が当初、重要な位置づけを占め、列島全

体をまたがるレイラインの中心となっていました。淡路島の神籬石に結び付き、民衆が神を崇め祀る高山として、いち早くその重要性が認知されたのが、四国の剣山です。淡路島近辺を通るレイラインの位置づけを細かく検証すると、剣山と神籬石を結ぶレイラインが六甲山を通り抜け、それらの拠点が他のレイラインとの交差点となり、複数の聖地と繋がっていることが一見して理解できます。すなわち、古代の重要なレイラインの源には剣山と淡路島、そして六甲山が存在し、その位置づけが古代社会においては極めて重大な役目を果たしていたのです。

聖地となる高山をひたすら探し求め、神の降臨を待ち続けた古代の民は、淡路島からもその頂上を遠くに眺めることのできる剣山を当初、その最終目的地として選び、四国では、その山頂周辺に高地性集落が築かれました。剣山を取り囲む周辺の山々は大変険しく、そこに到達するまで海岸線からは徒歩で一カ月程要しました。しかしながらどんなに険しい道のリであっても民は屈することなく、剣山を慕い求めて山々を登りつめ、いつしかその周辺には高地性集落を造成するに適した土地が見出され、人々が居住し始めたのです。古代、高地性集落の中でも最大規模を誇る邪馬台国は、これら剣山周辺に誕生した高地性集落の延長線に台頭し、相谷溪谷をはじめとする剣山周辺の山麓付近では、高山の急

斜面にも家屋が造成され、秘境とも呼ばれる高低差の激しい溪谷の合間には多くの村落が存在し、古代の史跡も散在しています。その原始的な余韻が残された光景からも古代集落の面影を垣間見ることができます。

特筆すべきは、西アジアから渡来してきたイスラエル系の民が携えてきた数々の神宝の存在です。民族が長い歴史の中で死守してきた神の臨在を象徴する宝であることから、それらを保管する場所が不可欠であったことは言うまでもありません。それ故、外敵の侵入を防ぐことができる安全な場所として、人が近づき難い剣山は、正に神宝を守る要塞を造成するには最良の場所として考えられたことでしょう。そして神宝は剣山の頂上近辺に秘蔵されることとなり、その周辺にて神を祀る祭祀活動が行われるようになったと考えられます。こうして海岸線から遠く離れ、一見不便な場所と考えられる剣山周辺には人々が集い始め、剣山を囲む山々の山麓に大規模な高地性集落が築かれていくことになるのです。

ところが二世紀に入り、卑弥呼と呼ばれた霊能力に優れた女王の台頭と共に、状況は一変します。霊媒や占いを用いて禁じ、それらは死刑に値すると先祖代々から語り告げられ、聖書にも明記されているモーセの律法があるにも関わらず、卑弥呼はその教えを無視し、自らの霊力と英知を依り頼んだのです。卑弥呼がイスラエルの教理を知っていたか、今になって確認する術はありませんが、四国の高山に集まってきた民が当初、イスラエル系の民族であった可能性が高いことから、その可能性は十分にありまます。そして卑弥呼はいつしか自らを神格化して国々を取りまとめ、海外にまでその名声を広めるに至りました。

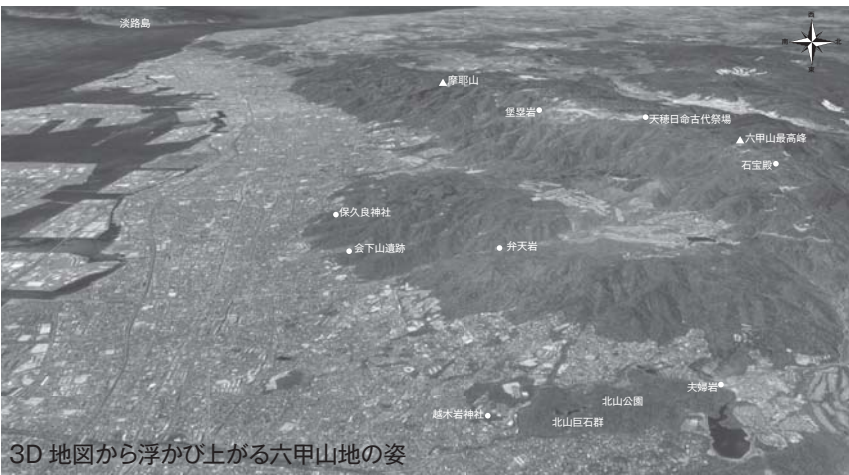
しかし時代の流れと共に、日本列島内には真に国家の再建を願う、熱い想いが息吹始めていました。そして新しいエルサレムを日本列島内に復興させることを願った宗教的リーダーや、王系の流れを汲む一族らは、列島の地勢をきめ細かに検証した結果、その都の場所が奈良盆地周辺であることを確認し、都の造営を準備し始めたのです。その後、民族の悲願であるイスラエルの復興を願

求めたユダ族やレビ族の血統を汲む民を中心とする渡来者の波が列島に向けて加速するにつれ、やがて抵抗勢力の力が邪馬台国よりも勝るようになりまます。そして、新たな宗教的リーダーに導かれたイスラエル系王族の血統を継ぐ集団の勢力に屈した邪馬台国は、三世紀後半より崩壊の一途をたどり、じきに消滅することとなったのです。その結果、邪馬台国は単に滅亡しただけでなく、最終的に剣山周辺の山々は、霊媒が執り行われた汚れた地として、聖書の教えに従って火で焼かれる運命となりました。

神の臨在の証でもあり、イスラエル民族の象徴でもある神宝が、その直前に剣山から持ち出されたことは言うまでもありません。神聖なるイスラエルの宝は、人間の手によって消滅できるようなものでもなく、人類の歴史が続く限り必ずどこかに温存されているものと考えられます。そして邪馬台国が焼け地となる直前、神宝は剣山から取り去られ、聖なる宝の新しい秘蔵場所が、日本列島内を探し求められたと考えられます。そして古代の宗教学者らは英知を絞り、日本列島の地勢と諸々のレイラインを検証しながら、神宝を秘蔵する聖なる山にて、祭祀活動も執り行うことができるような理想郷を、淡路島に紐づけられた地域に特定しようとしたのではないのでしょうか。その聖地の場所をピンポイントで見出す為に、新たな列島のレイラインが育まれることとなります。

その背景には、イスラエルの旧約の時代から、イエスキリストの新約時代に至るまで、一貫して聖書では「聖なる山」と共に、「岩なる神」のコンセプトも明記されていることがあります。イスラエル系の渡来人にとって、アブラハムから始まる族長時代から「岩なる神」への想いは極めて重要であり、神は岩周辺に訪れただけでなく、その後、モーゼの時代においても、岩の上で祭祀活動が行われていたことを聖書の記述から知ることができます。「もしわたしのために石の祭壇を造るなら、切り石で築いてはならない。のみを充てると石が汚されるからである。」(出エジプト20章25節)

また、いつの日でも高い山に登り、神の山にて礼拝を捧げる  
次頁に続く



3D 地図から浮かび上がる六甲山地の姿



ことは大切なことと考えられていました。

「主の山に来て、イスラエルの岩なる神にまみえる」(イザヤ30章29節)

「高い山に登れ、良い知らせをシオンに伝える者よ」(イザヤ40章9節)

イスラエル系の識者らは、剣山から神宝を移動するにあたり、新たな山に聖なる岩場を見出し、そこを磐座とする必要性に迫られていました。淡路島周辺の地勢を検証する限り、剣山から神宝を移設する可能性を含む岩場がある高山とは、淡路島の鬼門となる北東方向に見える六甲山地しか選択肢が残されていないようです。実際、六甲山地は花崗岩を中心とする巨石の宝庫であり、そこでは古代、多くの祭祀場が存在したことが知られています。その六甲の巨石文化の痕跡には、剣山に秘蔵されていた神宝の軌跡が残されていた可能性があります。

**守護神のシンボルとなる六甲山**

淡路島の神籬石に結びつけられた指標として、富士山と同様に位置づけられていた剣山だけに、その場所から神宝を移設するにあたっては、当然のことながら剣山に相応するような高山が当初、探し求められたに違いありません。そして、剣山と淡路島の神籬石を奥宮とする伊弉諾神宮を結ぶレイラインが、標高931メートルを誇る六甲山最高峰と結ばれることに着眼した古代の識者らは、六甲山地の存在を徹底してマークしたのです。


剣山と六甲山最高峰を繋ぐレイラインは伊弉諾神宮を通り抜けるだけでなく、摩耶山の山頂も通過します。3Dの航空地図を参照すると、六甲山地は巨大な岩が平地から突き出ているように見えるだけでなく、実は淡路島と一続きになっ

ているプレートの流れを継いでいる山地であり、淡路島と同様に南西から北東方向にかけて、およそ右肩上がりの方向に山脈が走っていることがわかります。約1000万年前、六甲山地は淡路島と地続きであり、その後、六甲変動と呼ばれる断層運動により、大阪湾周辺が沈降して広大な湾岸へ、逆に六甲山地は隆起し続け、現在の地勢を形作りました。今日でも六甲淡路島断層帯は存在し、元来、淡路島と繋がっていたことを証しています。

六甲山地には広大かつ急斜面が続く山麓が広がるだけでなく、山の周辺には牧場やゴルフ場、森林植物園や公園も存在し、今日では関西地区におけるレジャーのメッカとして、庶民の憩いの場となっています。また、ほぼ垂直に立ちあがる巨大な岩場も多く、ロッククライミングの発祥の地としても有名です。これら六甲の巨石の多くは花崗岩でできており、高級な石材として用いられたことから、豊臣秀吉の時代から江戸時代にかけては多くの岩石が伐り出され、城の造営などに多用されました。その結果、今日の六甲山の姿は、古代の様相とは大分異なる場所が多々存在するようです。それでも昔からの面影を十分に察することができるほど、六甲山地の自然は美しく、その見事な光景をもって庶民の心を和ませてくれます。

六甲山地が古代から聖山として注目されていた理由は明確です。まず、六甲山最高峰周辺が、伊雑宮と出雲大社、そして諏訪大社と石鎚山を結ぶレイラインがちょうど交差する場所に存在することです。特に六甲山最高峰周辺のレイライン上には、石宝殿や摩耶山、北山巨石群など、多くの磐座と祭祀場が存在することは注目に値しま

す。また、四神相応と呼ばれる古代、東アジア中国で培われた伝統的な地相と方位学によれば、理想郷の在り方は、北側に山、南側に海、西側にはなだらかな道が続き、東方は蔵風聚水、すなわち水源や陽風を取り入れる丘陵が広がる場所と解釈できます。すると淡路島にとって六甲山地は北の玄武にあたります。また、島の南方には広大な海が広がり、西方には瀬戸内のおだやかな海原にそって山陽道が続き、東方には大阪湾から琵琶湖へと豊かな水源を含む丘陵が続くとみれば、淡路島は四神相応に準じた日本列島の中心地と考えることができます。しかも六甲山は淡路島のおよそ北東に位置しますが、その方角は陰陽道でいう鬼門、すなわち、鬼の出入りする場所にあたります。その故、必然的に六甲山においては多くの磐座が見出され、そこで祭祀活動が活発化したと考えられるのです。こうして六甲山は日本の中心となる淡路島北方の守り神が君臨する山地として、古代から重要な位置づけを占めることとなります。

また、六甲山地は、大変見晴らしの良い場所であること  

 石宝殿南側斜面の磐座  
 も、古くから重要視された理由です。六甲山最高峰からは大阪や和歌山、淡路島は勿論、天候に恵まれた日は四国の山も遠くに眺めることができます。また、夜景の美しさで定評のある標高700メートル程の摩耶山頂上からも、東南220度から東は70度前後までの景色を山の南側に眺めることができます。そして同様のビューは、堡壘岩、北山巨石群など、六甲山地に

ある他の巨石を中心とした史跡の高見場所でも確認することができただけでなく、摩耶山の東方にある長峰山の天狗塚からは、ほぼ360度のパノラマビューさえも楽しむことができます。六甲山地は淡路島と同様に南西から北東に向けて連なり、山地の南側は、ほぼ全面が急斜面となっていることから、山麓の随所から素晴らしい景色が見ることができるのです。また、保久良神社などは、「海から昇る太陽を遙拝する最適な場所として探し求められ」と、神社の御事蹟に明記されている通り、海から昇る太陽を眺めつつ、暦を刻むこともできました。更に山地から眺める景観は、拠点を防御するという戦略的な視点からも重要な要素となりました。六甲山地は、聖地となる為の必要不可欠な要素を十分に兼ね備えていたのです。

**六甲山地の巨石文化を訪ねる**

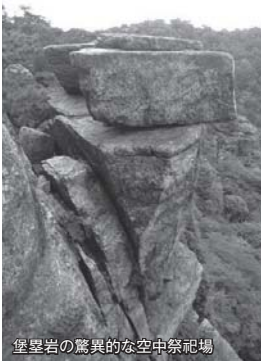
実際に参詣道を巡り歩いて多くの史跡や巨石文化の有り様を目の当たりにすることにより、六甲山地の美しさと、その歴史の重みをより実感することができます。山地の随所に見られる巨石群や、神籬として温存されてきた聖地の数は列島内でも群を抜いて多く、古代の民が六甲山地を特別視したことは明白です。特にその巨石文化には目を見張るものがあり、ここではその魅力の一部について、具体的な事例を紹介することとします。

まず六甲山最高峰の東方、およそ1キロメートルの場所にある石宝殿を検証してみましょう。この場所は出雲大社と伊雑宮、そして諏訪大社と石鎚山を結ぶレイラインが交差するポイントの地点であり、しかも六甲山最高峰に隣接し、見晴らしも大変良いだけでなく、山の斜面に巨石の存在も確認されたことから聖地化されたようです。地図上では石宝殿、または石の宝殿と記載されることもありますが、実際には白山の宮と掲げられた鳥居があり、六甲山神社とも呼ばれています。そこに祀られている神は、白山大権現です。白山信仰の聖地となる白山を開いたのは秦澄大師と言われ、秦氏であると考えられることから、白山大権現が祀られる石宝殿の由来には、秦氏らイスラエル系渡来人が関与していることが伺えます。つまるところ六甲山にて白山大権現が祀られているということは、大阪から奈良、和歌山、淡路島、四国を見渡すことができる六甲の頂点をイスラエルの神が治めていることを象徴するようでもあり、極めて重要な意味を持つこ

とになります。  
 この石宝殿では境内らしい場所も見当たらず、舗装もされていない駐車場の一角に真新しい白山姫観音像が建てられ、その背後には古びたバラック仕様の社殿しか目に入らないことから、一見、荒廃した神社にしか見えません。ところが、社殿の裏から南方に向けて斜面を下りるとその様は一変します。まず、山道を下ると白水不動が祀られている霊水場が目に入ります。そして社殿から鉄塔の裏側に繋がるもう一つの山道を50メートル程下ると、そこには巨大な岩が祀られた磐座が存在します。磐座の名称は定かではありませんが、明らかに白山大権現と六甲山最高峰に紐づけられた貴重な聖地であり、それらの御神体に匹敵するような巨石であることに違いはありません。北山公園の南にある越木岩神社では、この石宝殿が奥宮であることが明記され、越木岩神社の氏子らが石宝殿の建立に携わっていたことも判明しています。更に古代から、石宝殿は六甲山地周辺に建立された神社の中心的存在と考えられていたことが伝えられています。ことからしても、やはり石宝殿の場所はレイラインが証するように、地域の最重要拠点であったと考えられます。

標高931メートルを誇る六甲山最高峰と比較すると230メートル程の高低差があるものの、摩耶山も六甲山地に含まれる聖山としての貴重な位置づけを持っています。摩耶山は弘法大師のゆかりの地でもあり、元来、大師が中国より持ち帰った梁の武帝作、摩耶夫人尊像が切利天上寺に奉安されたことから、摩耶山と呼ばれるようになったと言われています。弘法大師が愛した山だけに、摩耶山からの見晴らしは格別であり、大阪一帯から和歌山、淡路、四国と見渡すことができます。また、摩耶山の周辺には古代から歩まれてきた参詣道が巡らされ、その道沿いには多くの滝場や祠が存在し、観音道と奥の院道を一周すると88か所巡りとなる程、修験道に関わる民にとっても重要な修行の道でした。更に摩耶山頂上のすぐ南には、摩耶山の陰陽石として知られ





る天狗岩大神が祀られ、その南方 500 メートルほど山道を下ると摩耶山史跡公園があり、弘法大師が水を飲まれた弘法清水が公園のそばにあります。古代の参詣道や複数の磐座だけでなく、人の手が多分に入ったと見られる山の斜面に広がる岩場の姿から、今日でもただならぬ雰囲気と、聖地としての重厚感を肌で感ずることができるのが、摩耶山の不思議です。摩耶山の存在は神宝の行方をうさうでも、大変貴重な位置づけを占めていると言えるでしょう。



その摩耶山の北東には、六甲山と摩耶山の山頂を結ぶレイライン上に、壘壘岩と呼ばれる最大級の巨大な磐座が、標高 700 メートル程の地点に露出しています。壘壘岩は中央稜、東稜、西稜と呼ばれる 3 列に並ぶ巨石から成り立ち、芦屋ロックガーデンと並び、ロッククライミング発祥の地の一つとしても有名です。しかしながら後述する通り、この壘壘岩は古代、人の手により岩が伐られて造られた壮大な規模の史跡と考えられ、弘法大師の手も加えられた作品と推測されることから、大切に保護しなければならない国宝級史跡の一つと考えられます。壘壘岩の中央稜には、その高さ所の頂点近くに祭祀場が設けられ、一つ間違えて足を踏み外せば落下して即死するという聖所です。このような危険極まりない場所でも古代の民は、祈りを捧げていたといふことは、驚嘆せざるにはいられません。この壘壘岩も、その位置づけ、形状、そして岩が伐られた方角からして、神宝の行方をうさう貴重な鍵を握っていると考えられます。

その他、花崗岩を主とする六甲山地の磐座の中には、岩の伐り出し方や積み方、最終的な小山、丘陵の形状が類似していると思われる場所が多々、見

受けられます。その事例として、芦屋川の北方、道路沿いからも見える巨石を誇る弁天岩や北山公園沿いの夫婦岩があります。これらは単にその巨石の大きさだけが注目点ではありません。実はその巨石の背後に控える裏山が重要であり、そこにはまるで巨石の博物館とも言える豪快な岩場が続いています。特に弁天岩の裏山は諏訪大社裏の守屋山を彷彿させる巨石の宝庫であり、弁天岩の背後から 15 分ほど山を登ると、遠い昔、祭祀活動が営まれていた可能性が考えられる、扇型に広がる巨大な岩場を目にすることができます。これら山麓沿いの岩の中には中世に伐りだされた岩石も含まれている可能性は否定できませんが、その大半は昔のままの姿を留めているように見受けられます。



また、弁天岩から東北方向、北山公園沿いには、夫婦岩が道路の中央で祀られています。注目すべきは巨石が 2 つに割れていることであり、その割れ目の方角がちょうど東西の方向を向いていることです。すなわち、夫婦岩は方向石として用いられていたと考えられ、その裏山には弁天岩と同じように、人の手が入った岩場が続きます。その他、北山公園内の巨石群も注目し、それら巨石の多くが、日の出、日の入りに関わる太陽の位置や、方角までも考慮され、整然と並んでいることが調査によって指摘されています。無論、そのために時には巨大な岩石が移動されることもあったに違いなく、古代の優れた英知の結晶とも言えます。



これら六甲山地を覆う巨石文化と共に、六甲周辺に確認されている弥生遺跡の存在にも留意が必要です。阪急神戸線岡本駅の北側に建立されている保久良神社からは、その境内外地周辺より古代祭祀の遺跡が発掘され、環状列石内より複数の銅矛や石器が見出されました。また本殿の裏には三つの巨石が林立し、これら祭祀跡の由来は前三世紀より二世紀までに渡る

極めて古いものと推定されています。また、保久良神社の東方には会下山遺跡があり、これも弥生時代中期から後期、およそ二千年前の高地性集落遺跡として、祭祀場や竪穴住居跡だけでなく、堀跡や焼土杭、墓地などが発掘され、国の史跡にも指定されています。



摩耶山に繋がる石上神宮と伊雑宮

摩耶山が古代の聖地として特別視されたことは、レイラインを介して伊勢神宮と密接な繋がりを持っていたことから理解できます。剣山と伊弉諾神宮、そして六甲山最高峰を結ぶレイライン上に位置する摩耶山は、六甲の壘壘岩とも結びつけられているだけでなく、そこから真北に引く線は、天橋立そば、籠神社の奥宮である真名井神社を通りぬけます。籠神社は元伊勢として知られていますが、その奥宮が真名井神社です。そして真名井神社の紋は、イスラエルのダビデの星であり、古くからイスラエルとの関わりを指摘する声が続きます。これらのレイラインは、摩耶山が、剣山や伊弉諾神宮、籠神社や真名井神社だけでなく、伊勢神宮とその奥宮である伊雑宮とも繋がっていることを証しているのです。伊雑宮の紋と真名井神社の紋が同じダビデの星であることは、決して偶然の一致ではなく、イスラエル系の民が、それら聖地の建立に関わっ

ていたことの証と考えられます。摩耶山が真名井神社とレイラインで繋がり、伊勢神宮に結びつけられることにより、今度は摩耶山と伊勢神宮の奥宮である伊雑宮を直接結ぶレイラインも重要視されました。時代の流れと共に、古代の民が求める聖なる都の場所は、淡路島の東方にあたる奈良盆地の周辺に目が向けられるようになっていたのです。そして摩耶山と伊雑宮を結ぶレイラインは、奈良盆地の中心を通り抜けることから、そのライン上に奈良の石上神宮が建立される運びとなります。

特筆すべきは、古代の民の「石」や「岩」に対するこだわりです。奈良の石上神宮は、古事記や日本書記にも記載されている最も歴史の古い神社の一つであり、大量の神宝が一時期、保存されていたことでも有名です。おそらく石上神宮が建立された理由の一つに神宝の保存があったのではないのでしょうか。また、レイラインを通じて石上神宮と繋がる聖地の多くは、神籬とも呼ばれる聖なる岩石が存在し、その名称にも「石」「岩」という字が含まれることが多いです。摩耶山周辺の六甲山地には壘壘岩も含め、重要な神籬が多数存在するだけでなく、摩耶山に通じるレイライン上の剣山には宝蔵石が、そして岩上神社には神籬石が存在します。岩上神社の縁起書によると、神籬石を祀る岩上神社の創立は、奈良石上神宮の分霊を勧請創始したと伝えられていることから、現実的にも神籬石と石上神宮の繋がりが確認することができます。更に摩耶山の北方、真名井神社では、磐座にて神々を祀るために本殿が存在しない代わりに、拝殿の裏には二対の磐座が祀



られています。六甲山地、摩耶山のレイラインに並ぶ聖地の多くが、巨大な岩石を神籬として祀っていることには、それなりの理由があるようです。剣山を発端とした神宝の移動に、これらの磐座、「石」の存在がその守護神、もしくは移動する指標として関わっていた可能性も考えられます。イスラエルの民にとって、神はあくまで「岩なる神」であったからです。それ故、古代のレイラインを検証しながら神籬となった聖なる岩場を追うことにより、もしがらすと剣山から持ち出されたイスラエル神宝の行方を見出すことができるかもしれません。元来、レイラインが交差する中心地は淡路島であり、神籬石に直結する剣山こそ、誰もが崇める聖山として比類なき雄姿を誇示していました。しかし邪馬台国の弱体化と共に、剣山から六甲山へとレイラインの焦点が移行したのです。その結果、六甲の摩耶山が伊勢神宮と結びつけられ、そのレイラインが通り抜ける奈良盆地に、古代譚者が注目するという意外な展開へと発展することになります。神宝を守護するのは「岩なる神」ご自身であるという宗教観を元に、巨石と磐座の文化が列島内に広がりをみせることとなります。(文・中島尚彦)

連載中の歴史コラムは随時更新して <http://www.history.jp.com/> に掲載しています。是非ご覧下さい。

来たれチャレンジャー!

私は、IT・情報セキュリティという異業種の世界から飛び込み、すべてが新しい分野での取組みながら、今や、スタッフと一緒に汗を流すことを楽しみにしています。新人もスタートから一緒にみんなで仕事をしてもらい、即戦力です。楽器・音響照明機器の通販(ネット事業)では業界トップ。自分を活かしたい人にはチャンスを常に提供する会社です。みんなでさらに発展させて行きましょう!

みんなの応募を待っています!



サウンドハウスグループの中核である物流を担う株式会社 **ロジハウス**

●応募はWEBサイトから、もしくは希望職種を記載の上、履歴書/職務経歴書を直接郵送してください  
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)  
<http://guide.soundhouse.co.jp/kaisyu/saiyou.asp>

思いも運ぶ 物流会社です。



物流倉庫管理スタッフ(パート・正社員)募集

全国へ出荷する商品のピッキング・梱包、商品の入出庫管理や通関業務のお仕事です。

【時間】パート / 7:00~19:00で6時間以上勤務できる方  
正社員 / 平日・土曜日 7:00~17:00(休憩1H)  
※早出、残業有  
【休日】日祝日、隔週土曜、年末年始休暇、有給休暇

パート  
時給 1,000円~  
正社員  
月給 19万円~

充実の福利厚生

- 社保完備、年2回賞与(パート含む)
- 車通勤可 ●海外研修 ●天然温泉無料優待
- 独身・家族用マンション、家族用戸建あり、etc...

お問合せ (担当:採用係)

0476-89-1777  
job@soundhouse.co.jp

# 成田グルメNAVI

第92回

本格的なナポリピザが味わえる良店  
ピッツェリア ポジターノ

成田駅から参道に入って徒歩1分、本格的なナポリ・ピッツァが食べられるという「ピッツェリア ポジターノ」を訪れた。2階建ての店内は柔らかな白を基調とし、清潔感がある。黒板の手書きメニューから「トマトバジルモッツアレラチーズ」「アンチョビキャベツ」のピスタを2品、メインのピザは「水牛モッツアレラのマルゲリータ」「DOC

水牛モッツアレラとチェリートマトピアンカ」。「ボルケッタピアンカ(豚バラ肉)」をオーダー。食材はイタリアから直送しているとのこと。ピザはオーダーしてから焼き上げるので時間がかかるが、この店の看板だけありもちもちの生地の上にチーズがとろけ、正に完成された美味しさ。値段も良心的で、ピザは980円～、パスタは1,180円～。更にランチは880円からというのだから嬉しい。しかしピーク時を避けたこともあるが、客数の割にシェフ1名、フロア1名という配置のために対応が遅い感はある。他の席でも料理を待ちかねている様子が伺えた。とは言え、深夜12時まで本格的なイタリアンが気軽に味わえる良店だ。

ピッツェリア ポジターノ

千葉県成田市花崎町533  
☎0476-24-1727  
[11:30~16:30(ランチ)、  
18:00~24:00・不定休]

総合評価★★★★☆



カリフォルニアのおいしい水 アクアヴィル

# AQUAVILLE

PURIFIED DRINKING WATER 500mlボトル24本入

お手頃な価格でお届けします。  
【携帯でのご注文はこちら】  
フィットネスハウス  
☎0476-89-3111

1ケース 送料込 **878円**  
2ケース(送料込\*) **1,480円**  
※一部離島を除く



## 正社員・パート募集

社月給24万円～ 四時給1000円～

【業務】北欧家具・アジアン家具、ガーデン家具をショールーム・ショッピングサイトを通じて全国通販  
\*電話やショールームでの問合せ・注文の対応  
\*海外への商品発注のサポート  
【時間】平日 9:00-19:00(休憩1H)  
土曜 11:00-17:00  
(パートは1日6時間以上勤務できる方)  
【休日】日祝日、隔週土曜、年末年始、有給休暇

充実の福利厚生 ●天然温泉無料優待(家族)  
●社保完備、年2回賞与(パート含む) ●海外研修制度 etc

〒286-0045 千葉県成田市並木町14-2

株式会社 **ファニチャーハウス**

## 北欧・アジアン家具を販売!



PC用e-mailアドレスまたはFAX番号を明記した履歴書/職務経歴書をEメール、もしくは直接郵送してください

お問合せ(担当:採用係) **0476-89-1777**

e-mail: job@soundhouse.co.jp  
http://www.furniturehouse.co.jp



全国トップ20ランタ入り

うるほ 潤す 自然に囲まれた天然温泉  
一面に広がる田園風景と、多くの効能がある成田の名泉。心と体を解きほぐす、くつろぎのひとときをお過ごしください。



富士見の湯



千里の湯

みだ 満す Yavot SPA & FITNESS 大好评! スパ&フィットネス  
アロマ・ボディなど、一流施術師のケアでほっとリラックス

- ◆ボディ.....(30分) 3,200円～
- ◆フット.....(15分) 1,800円～
- ◆アロマ.....(30分) 4,000円～
- ◆フェイシャル... (30分) 3,500円～

- ◆フィットネス新料金
- ◆ジム.....◎1,000円
- ◆ジム+プール...◎2,000円

あじさい艶めく 大和の湯

しよく 食す 淡路島から日々直送  
新鮮な魚や特産品の玉ねぎなど、こだわりの食材を淡路から。産地直送ならではの美味しさを堪能ください。



初夏の淡路御膳 1,500円

釣り鱒姿造り 1,200円



＜御料理内容の一例＞  
\*入浴する食材は日々変わりますのでご了承ください。

www.yamatonoyu.com ■入館料|平日:700円 土日祝:1000円  
TEL **0476-28-8111** 承継学院の入浴はご遠慮ください  
営業時間|10:00-22:00 ※年中無休(全館禁煙)

安全 18歳未満は入浴不可 18歳未満は入浴不可 18歳未満は入浴不可  
JR成田駅から1駅の 下総松崎駅から徒歩約20分 房総風土記の丘・坂田ヶ池公園に隣接。大駐車場完備  
フロアスタッフ募集 [給与]時給1000円 [勤務]平日9:00~22:00 [休日]ソフト制(月曜) [資格]学歴・性別不問 [応募]履歴書・写真  
\*日本企業の方歓迎!お気軽にお問い合わせください

## WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。本紙のバックナンバーはWEBサイトにすべてご覧頂けます。連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新してスペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめてあります。ご意見・ご要望をお待ちしております、FAXやホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>  
日本とユダヤのハーモニー: <http://www.historyjp.com/>



## 編集後記

カラ梅雨の日々が続いています。国内では渇水のひどい地域があり、節水発令が出された自治体もあるほどです。アベノミクスのバブルも崩壊寸前。読売ジャイアンツが勝ち進んでいた時は良かったものの、一旦負け始めると日経平均も急落し、市場には緊張が走っています。隣の朝鮮半島ではつい先日まで弾道ミサイルが発射されるかと思いきや、今度は南北対話へと進展し、マクロ世界も先が見えず、やはり大切なことは、今日という日を精いっぱい生きていくことだと思わされるこの頃です。

NCJ編集長 中島 尚彦  
1957年東京生まれ。14歳で米国に単身テニス留学。ウオートンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業。米国ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田においてサウンドハウスを立ち上げる。現在サウンドハウスホールディングス代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はマラソンとギター、アイスホッケー、及び日本古代史研究。

